Yokohama　Rosai　Hospital

横浜労災病院　広報誌

労災だより

２０１９－Sep

Ｎｏ．１４

糖尿病診療の現状

糖尿病の治療に困ったらご紹介ください。

糖尿病内科部長　鶴谷　悠也

2019 年の 4 月より、糖尿病内科の部長を拝命した鶴谷と申します。私は 2003 年に千葉大学医学部を卒業し、以後市中病院での勤務、研究機関での研究活動等を経て、2015 年より当院に勤務しております。

糖尿病内科は、大きくは内分泌・糖尿病センターに属しています。当院の内分泌・糖尿病センターの特徴として、原発性アルドステロン症の診療で有名な事があげられます。糖尿病は、外来通院患者が 2000~2500 人、入院は年間 350 人程度です。その他、甲状腺、下垂体疾患を始めとする様々な内分泌疾患を診療しています。当科の特徴の一つとして、学会・研究活動が盛んなことがあげられます。若手の先生が毎年のように国際学会で発表を行い、私自身もこれまでに 9 報の英語論文(うち 6 報は 1st author もしくは corresponding author)を報告しています。これは、名誉院長である西川哲男先生の影響が強いと考えます。

当院に通院する 2 型糖尿病患者さんは、平均すると、62±13.9 歳、BMI 25.4±5.1 kg/m^2、HbA1c 7.2±1.5%、eGFR 72.0±25.5 mL/min/1.73m^2、使用薬剤数は 2.3±1.4 剤となりますが、若い方から超高齢者まで、痩せている方から高度肥満の方までと、色々な患者さんが通院しています。

糖尿病診療の大きな進化を 2 つ挙げると、1 つは薬が進化したこと、もう 1 つは器械が進化したこと、があります。糖尿病薬は内服薬で 7 種類、注射薬で 2 種類と非常に沢山の薬があり、我々は病態やエビデンスに基づいて、適切な処方を決定します。器械の進歩として、free style libre、sensor augmented pump といった 24 時間持続血糖測定器及びそれに連動したインスリンポンプが登場してきています。これらの器械の発達により恩恵をうける患者さんも増えることと思われますが、同時に適正に使用する、医療者側がしっかりと器械の特性を理解する事も必要になってきていると感じます。

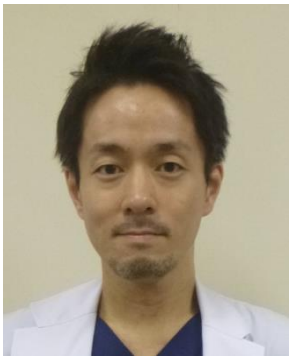
患者さんを紹介していただく場合、特に決まった基準はありませんが、平均すると 2-3 剤の経口薬を使用して、HbA1c が 8-9%以上なら紹介されるケースが多いようです。ただしこれにこだわらず、先生が“困ったら”紹介して頂ければと存じます。特に、1 型糖尿病の新規発症が疑われる症例(300-400mg/dl 以上の高血糖、尿ケトン陽性、口渇、多尿、体重減少あり、など)、高血糖緊急症等は予約が先になるようなら、遠慮なく当番医に連絡して下さい。また、教育、検査、治療を 3 本柱とした糖尿病教育入院も行っておりますので、糖尿病に関する教育が必要と考えられる患者さん、血糖コントロールが不良で治療の見直しが必要である患者さんを紹介して頂ければ幸いに存じます。

今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

横浜労災病院　膵臓がん早期診断プロジェクト

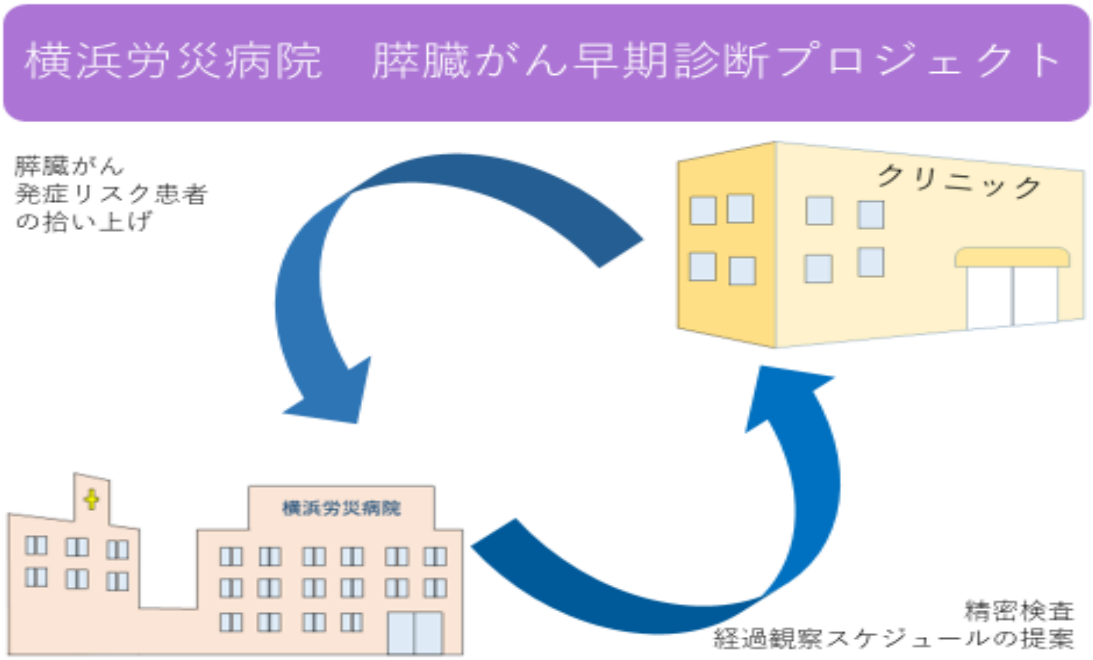
膵臓がんの早期診断を目指した病診連携に取り組んでいます。

消化器内科副部長　関野　雄典



地域の先生方と共同して膵臓がん発症リスクの高い患者さんを拾い上げ、情報の共有を行いつつ根治可能な早期がんの状態で膵臓がんを発見、克服することを目的に、横浜労災病院　膵臓がん早期診断プロジェクトを行っています。

このプロジェクトは**地域の先生方との病診連携を通して、膵臓がんを疑うサインが発見された場合に、直ちに精密検査を行って適切な診断を行うもの**です。



膵臓がん発症リスクと考えられる項目

・症状

原因のはっきりしない腹痛、背部痛、
食欲不振、早期飽満感（食事中すぐに
お腹がいっぱいになって食べられない）、
黄疸、体重減少

・糖尿病

特に診断から 3 年以内の方、急な増悪を認める方

・血液検査

膵酵素異常（アミラーゼ、リパーゼ）、膵腫瘍マーカー異常（CA19－9、CEA、Dupan-Ⅱ、Span-Ⅰ、エラスターゼⅠ）

・画像検査

膵のう胞、膵管拡張（3mm 以上）、膵腫瘍、膵石灰化、胆管拡張

・患者背景

膵臓がんの家族歴、慢性膵炎、原因不明の急性膵炎、肥満（昔肥満であった方を含む）
飲酒、喫煙

上記に示すような膵臓がん発症のリスクファクターを有する患者をより積極的に御紹介頂き、MRI 検査並びに EUS 検査を行います。当科は、特に早期膵臓がんの発見に必須の EUS 検査を年間 700 件超の症例数を扱っており、皆様のお役に立てる分野であると自負しております。なお、検査にて治療の必要がある病変が発見された場合には、当科だけでなく、外科・腫瘍内科を中心とした集学的治療を行っています。

また、このプロジェクトの最大の特徴は、地域の先生方と連携して経過観察を行ってまいります。

当科において膵臓がんの発症リスクを評価し、リスクに応じた検査スケジュールを提案させて頂き、地域の先生方と共同してその検査スケジュールの管理と経過観察を行うことで、膵臓がんを疑うサインをいち早く拾い上げることを目的としています。地域の先生方のお力をお借りすることで、地域住民の膵臓がん早期発見に務めていきたいと考えています。膵臓がんの発症リスクを有する方がおりましたら、是非当科まで御紹介下さい。また、ご不明な点や緊急を要する方がいる場合には御連絡下さい。

膵臓がん早期診断プロジェクトは、紹介予約枠（毎日 10:00～）で対応しています。

・登録医療機関からのご紹介

地域医療連携室で承ります。診療予約専用電話を用意しております。

登録医専用予約電話：045-474-8362（平日 8：15～19：00）
登録医専用 FAX：045-474-8344
（予約申込票を当院 HP https://www.yokohamah.johas.go.jp/community_medicine/introduce/ より印刷、使用して下さい。）

・登録医療機関以外からのご紹介

登録医療機関以外からのご予約は、予約センターにてお受けしております。

電話：045-474-8882（平日 8：15～17：00）

FAX：045-474-8523（医療機関からのみ）

・緊急で受診が必要な患者のご紹介

当科医師に直接ご相談いただく場合

電話：045-474-8111（平日 8：15～17：00）に連絡頂き、交換手へ「救急患者紹介のため、消化器内科の本日の担当医まで電話をつないで欲しい」とお話し下さい。

地域医療連携室経由の場合

電話：045-474-8345（平日 8：15～17：00）へご連絡頂き、消化器内科の早急な受診希望とお話下さい。

※円滑な追加精査のために、「横浜労災病院　膵臓がん早期診断プロジェクト　紹介状資料**（添付資料・ホームページご参照ください）**」をご持参頂く様、お願いいたします。

貴院紹介状と併用する場合は、併存疾患や常用薬など、重複する項目については「別紙参照」などご省略下さい。

治療と就労の両立支援相談窓口について

当院を含む労災病院グループは、病気を抱えながらも働く意欲のある労働者が仕事を理由として治療機会を逃すことなく、また、治療の必要性を理由として職業生活の継続を妨げられることなく、適切な治療を受けながら生き生きと働き続けられる社会を目指す「治療と就労の両立支援」に取り組んでいます。

当院では、「治療と就労の両立支援」に関する相談窓口を 2018 年 4 月に患者サポートセンター（がん相談支援センター）に開設し、両立支援コーディネーター（医療ソーシャルワーカー）が疾患を問わず各種相談を承っております。相談は当院に通院中でない方も受けられますので、お困りの方がいましたらご案内のほどお願いいたします。

【両立支援相談窓口】

横浜労災病院　患者サポートセンター内

（平日 8：15～17：00）　TEL 045 - 474 - 8111（㈹）

横浜労災病院　横浜市港北区小机町 3211　TEL　045-474-8111

登録医予約専用電話　☎ 045-474-8362（直通）（受付時間　8：15 ～ 19：00）

登録医療機関の皆様　～　患者さんをご紹介される際には上記までご連絡下さい。